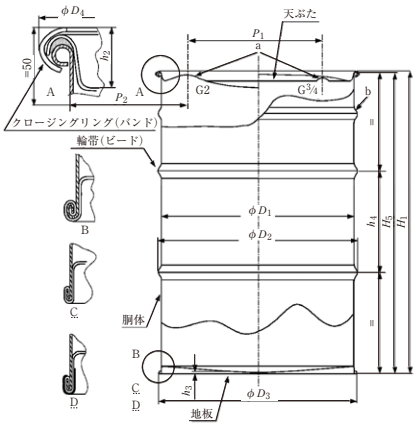
ドラム缶の寸法と重量

1. 鋼製オープンヘッドドラム(JISZ1600：2006)

図1 ドラムの形状 単位 mm



備考 図1は，ドラムタイプB及びDの詳細を示している。天ぶたの形状として，凸，平たん又は凹の三つの可能性があることを示している。Aは，天ぶたにガスケットを装着して，クロージングリング(バンド)で胴体に締め付けた状態を示す。B及びCは，巻締め形状を示す。Bはラウンドシームの Cはダブルシームの一例を示す。Dは，チャイムに覆輪に取り付けた状態を示す。

a 口金(任意)。
b 第3の輪帯(ビード)は任意。

表1 ドラムの寸法 単位 mm

寸法	説　明	ドラムタイプA		ドラムタイプB		ドラムタイプC	ドラムタイプD
(図1参照)	全容量	210L (最小)	216.5L (最小)	210L (最小)	216.5L (最小)	208L (最小)	208L (最小)
D_1	内径	571.5±2	571.5±2	571.5±2	571.5±2	566±2	566±2
D_2	輪帯の外径	585 (最大)	585 (最大)	596 (最大)	596 (最大)	585 (最大)	585 (最大)
D_3	底部チャイムの外径	585 (最大)	585 (最大)	593 (最大)	593 (最大)	585 (最大)	585 (最大)
D_4	クロージングリングの外径	585 (最大)a)	585 (最大)a)	610 (最大)	610 (最大)	585 (最大)a)	620 (最大)
H_1	ドラムの高さ	878±5	888±5	878±5	888±5	890±5	890±5
H_5	天ぶたを外した状態での高さ	868±5	878±5	868±5	878±5	880±5	880±5
h_2	天ぶたの深さ	b)	b)	b)	b)	b)	b)
h_3	フロアとのすき間	4(最小)	4(最小)	4(最小)	4(最小)	4(最小)	4(最小)
h_4	ビード間の距離	280±3	280±3	280±3	280±3	300±3	300±3
P_1	口金の中心間距離	c)	c)	c)	c)	c)	c)
P_2	天ぶたから約50mmの深さで測定した，胴体外側に対するG2(50 mm)口金の位置	72±3	72±3	72±3	72±3	94±3	94±3

全容量は，附属書Aに従って測定したとき，表1のとおりとする。
口金は任意である。口金を取り付ける場合には，JIS Z 1604 に規定するG2ねじ付きの口金の挿入は，その中心線が可能な限り垂直になるようにする。

備考1. 提示した四つのドラムタイプのうち，AとCの外側寸法は，ISO 668(シリーズ1貨物用コンテナー分類法，寸法及び定格)の ISO コンテナ内に4個のドラムを並べて積むのに最適である。

2. ドラムタイプ A と C の場合，直径 D_4 は，天ぶた構造を改造して得られる。一般的に用いられる手法は，次の二つである。

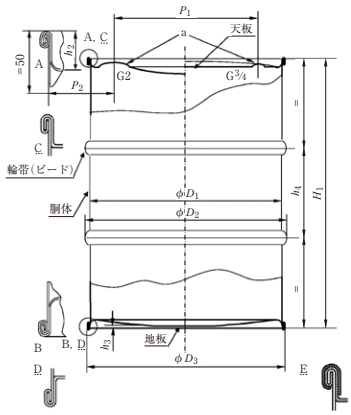
a) ドラムの縮小。それによってクロージングシステム(カール，天ぶた，クロージングリング)が，ドラムタイプBとDに用いられているのと同じ寸法を維持するようにする。この場合，ドラムの縮小された天ぶた部分で必要となる内径は，Aが約545mm，Cが約536mmである。

b) クロージングシステム(カール，天ぶた，クロージングリング)の変更。内径をドラムタイプAで571.5mm，ドラムタイプCで566mmに維持しながら，全外径を585mm以内に保つようにする。

注a) クロージングリング(バンド)の外径は通常最大585mmでなければならないが，リングのレバー断面又はボルト断面で測定した場合には，やや大きくてもよい。
b) 天ぶたに口金を取り付ける場合には，天ぶたの深さは，口金，キャップシール又はオーバーシールがクロージングリングの上に突き出てはならない。
c) 口金の中心間距離の寸法は，次のとおりとする。
— ドラムタイプAとB：444mm±6mm又は451mm±1mm
— ドラムタイプCとD：400mm±6mm

2. 鋼製タイトヘッドドラム(JISZ1601：2005)

図1 ドラムの形状 単位 mm



備考 図1は，天板の形状として凸，平たん又は凹の三つの可能性があることを示している。A, B, C及びDは，巻締め形状を示す。A及びBはラウンドシーム，C及びDはダブルシームの一例を示す。Eは，チャイムに覆輪を取り付けた状態を示す。

a 最終仕上がりの口金(プラグ，キャップシール又はオーバーシール)がチャイムの上端から突き出てはならない。

表1 ドラムの寸法 単位 mm

寸法	説　明	ドラムタイプA		ドラムタイプB		ドラムタイプC
(図1参照)	全容量	216.5L (最小)	230L (最小)	216.5L (最小)	230L (最小)	212L (最小)
D_1	内径	571.5±2	571.5±2	571.5±2	571.5±2	566±2
D_2	外径	585 (最大)	585 (最大)	596 (最大)	596 (最大)	585 (最大)
D_3	チャイムの外径	585 (最大)	585 (最大)	593 (最大)	593 (最大)	585 (最大)
H_1	ドラムの高さ	878±5	932±5	878±5	932±5	890±5
	天板の深さ	a)	a)	a)	a)	a)
	フロアとのすき間	4(最小)	4(最小)	4(最小)	4(最小)	4(最小)
	ビード間の距離	280±3	280±3	280±3	280±3	300±3
P_1	口金の中心間距離	b)	b)	b)	b)	b)
P_2	天板から約50mmの深さで測定した，胴体外側に対するG2(50 mm)口金の位置	72±3	72±3	72±3	72±3	94±3

全容量は，附属書Aに従って測定したとき，表1のとおりとする。
JIS Z 1604 に規定するG2ねじ付きの口金の挿入は，その中心線が可能な限り垂直になるようにする。

備考1. 天板を凹状にして製作するドラムは，規定の容量とするためにドラムの高さH_1を4mm引上げてもよい。

2. 提示した三つのドラムタイプのうち，AとCの外側寸法は，ISO 668 (シリーズ1貨物用コンテナー分類法，寸法及び定格)の ISO コンテナ内に4個のドラムを並べて積むのに最適である。

注a) 天板の深さは，口金，キャップシール又はオーバーシールがチャイムの上に突き出てはならない。
b) 中心間距離の寸法は，次のとおりとする。
— ドラムタイプAとB：444mm±6mm又は451mm±1mm
— ドラムタイプC：400mm±6mm